

6 月第 2 週の礼拝説教

■日 時：2023 年 6 月 11 日（日）10：30－11：30 聖霊降臨節第 3 主日

■説 教： 保科けい子 牧師

■説教題：「 賜物として聖霊を受け 」

■聖 書：使徒言行録 2 章 37～47 節（新約 p216～217）

■讃美歌：351 「 聖なる 聖なる 聖なる主よ、 」
470 「 やさしい目が、きよらかな目が 」

「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」。聖霊が降って教会が誕生した最初の日、ペトロが使徒たちを代表して語った最初の説教を聞いた人々は、こう問いかけました。「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ」とあります。このことは、聖霊の働きによって神様の御言葉が語られ聞かれる時、語る側の者はもちろんですが聞く側の人々の心も大いに打たれ揺さぶられ、「わたしたちはどうしたらよいのですか」という問いが生まれるということを示していると思います。そこには、自分は今のままでいることはできない、変わらなければならない、変えられたい、という願いが確かに生じていたということになります。たった一人の人であっても、御言葉を聞いて信仰を得ることが起こるのは奇跡以外の何物でもないということは良く語られます。けれども、教会が今こうして存在するという事は、2000 年にわたってそういう奇跡が起り続けてきたという確かなしるしということになりましょう。

使徒言行録 2 章 38 節を読んで見ます。人々の「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」という問いに対して、ペトロは、「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます」と答えました。ここに、キリスト教信仰の中心である罪の赦しとはどのようなものが語られています。それは簡単に言えば、罪の赦しは自分で獲得するものではなく与えられるものだ、ということです。「悔い改めること」、言い換えれば「回心すること」は、もともとの言葉の意味から言えば心の向きを変えることです。私たちが何か悪いことをしたと思ったとき、ほとんどの場合には、私たちは反省して二度と同じことを繰り返すまいと決意します。それは、私たちが自分ですることです。そして、キリスト教の信仰にはそういうことも確かに必要だと私も思います。しかしよく考えてみると、そのことだけでは自分自身の中にある深い罪を見出すことにはならないのではないのでしょうか。なぜなら、自分自身の中でどれだけ深く反省しても、私たちのそれまでの心の在り方、言い換えれば心の向きを完全にを変えることはできないからです。罪の赦しは外から与えられるものです。自分で努力して獲得できるものではないのです。

それを与えることができるのは神様のみです。私たちの罪を本当に赦す権威と力を持っているのは、神様だけなのです。イエス・キリストの名によって洗礼を受けることは、この神様による罪の赦しをいただくことです。神様は、その独り子イエス・キリストを人間としてこの世に遣わして下さり、その主イエスが私たちの全ての罪を背負って十字架にかかって死んで下さいました。主イエスは私たち罪人の身代わりになってご自分の命を与えて下さったのです。この主イエスの十字架において、私たちの罪の赦しを実現しています。神様はその主イエスを復活させることによって、主イエスを信じる者に罪の赦しと新しい命の恵みを与えることを約束して下さいました。それが、聖霊降臨によって現実のものとなりました。

そしてこの洗礼と結びついているのが、「そうすれば、賜物として聖霊を受けます」ということです。洗礼を受けて罪の赦しの恵みをいただいた者は、聖霊を賜物として受けるのです。それは何か特別な霊的な力を得るというようなことではなくて、キリストの教会に加えられることです。そもそもこの第2章に語られているのは、弟子たちに聖霊が降り、それによって教会が誕生した日の出来事です。ペトロ自身が聖霊を賜物として受けたことによって、このように御言葉を語る事ができているのです。私たちは、聖霊によって促され洗礼を受けることによって、キリストの体である教会の一員となり、自分自身も確かに聖霊を賜物として受けていることに気づかされ、その導きによって歩む者へと変えられるのです。39節をみますと、「この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです」と語られています。ここに、私たちが神様の救いの約束に与ることの最も確かな根拠が示されているのです。それは、主の招きです。私たちが救いの約束に与り、私たちの家族にも、また主なる神から遠ざかっているすべての人にもそれが与えられるのは、私たちの神である主が招いて下さっているからなのです。それが、2000年の間、キリスト教会が繰り返し繰り返し、主の日ごとの礼拝で宣べ伝えてきたことなのです。

最後に、私が賜物という言葉から、いつも思い出す御言葉を読みます。ヤコブの手紙1章17節から18節です。「良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。御父には、移り変わりも、天体の動きにつれて生ずる陰もありません。18 御父は、御心のままに、真理の言葉によってわたしたちを生んで下さいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂となさるためです。」